



フードクローゼット 活動を続けています

もう四半世紀が経過したことになります
が、4週に1度の土曜日に、近所のキリスト
教会で私はフードクローゼット活動を手伝っ
ています。約26年前、私は母と一緒にその教
会に通い始めました。それから約2年を経た
頃だったと思います、ある素敵な年配の女性
が美しいジャマイカ訛りで、フードクローゼ
ットを手伝ってくれないかと頼んできました。
天井近くの棚から物を取るために背の高い人
(私は194cm)を必要としていたのです。
それ以来、私はフードクローゼット活動を手
伝ってきました。

私の教会は昔、アメリカ合衆国という非常
に裕福な国にあってなお食料不安に陥ってい
る人が依然として多いと気づきました。そし
て、飢えに苦しむ近所の人々に食事を提供し
始めました。この活動は、他の教会や地域団
体にも影響を与えるようになり、熱心にこの
取り組みに参加してくれるようになりました。
そしてこの活動は、私の教会を出てより
広い施設に移らざるを得なくなりました。そ
れが、私が参加するフードクローゼットで
す。フードクローゼットとは、文字通りには
食品用物置というような意味ですが、ここ
では、貧困層が食事を補えるように、毎週土曜
の朝に保存のきく食品を私の教会が中心とな
って配布する場所のことです。

フードクローゼットは様々な人々や会社か
ら支援を受けています。たとえば、近所の或
るレストランは毎週金曜の夜、売れ残ったパ
ンなどの食品を大量に寄付してくれます。ま
た1年ほど前になりますが、或る仏教団体の
代表者から連絡があり、それ以来、非常に栄



養豊富で新鮮な果物や野菜を定期的に寄付し
てくれています。

私はインディアナ州で育ち、他人を助ける
ことが正しいと信じていましたが、本当に必
要でない限り助けを求めるべきではないとも
考えていました。私は「働かざる者は食うべ
からず」と書かれた新約聖書の言葉(テサロ
ニケ人への第2の手紙3章10節)を誤って理
解していたのです。食べ物を得られないのは
単に働く気がないからだと決めつけていたの
です。悲しいことに、助けを必要とする人々
に対して深く非キリスト教的な軽蔑の念を抱
くようになってしまっていたのです。

フードクローゼットで働くことは、そんな
私の考えを改めるのに役立ちました。もちろ
ん助けを求める人々にもいろいろあります。
今まで、私の教会の寛大さを悪用するズルい
人にも遭遇しました。一方で、精神的・身体

的な病気に苦しむ人、極低賃金で働くしかない人、仕事を見つけられない高齢者、生活費を賄うだけの賃金を得られない移民等々、多くの困窮した人々に出会いました。彼らの多くは、一生懸命、長時間働いていました。彼らが貧しいのは怠けているからではありませんでした。働く意思はあるのだが、それでも食べられないのです。



フードクローゼットでは、とても励まされる出来事をたくさん目にしてきました。教会の友人や仏教徒の会衆、その他のボランティアと一緒に活動することは、言葉に尽くせないほど私の人生を豊かにしてくれました。

金曜日には、妻と私は近所の協力的なレストランに行きます。そこで、顔馴染みになった同じ働き手に出会い、下手なスペイン語やアムハラ語を使ったりします。妻が助けることにこれほど熱心でいるのを見ると、私は幸せな気持ちになります。

毎年クリスマスになると、フードクローゼットでは、親が子どもたちに何かをプレゼントできるようにとおもちゃの配布を企画します。そこでは、「親だけが玩具を選ぶことが許される」というシンプルなルールがあります。しかし或る年のクリスマスにフードクローゼットの責任者が、或る高齢の男性が孫のためにおもちゃを手に入れられるようにと、公然とそのルールを破りました。ルールを守ることはもちろん大事です。しかし、たまにはそれを破って余りある出来事もあることを学びました。



私が参加するフードクローゼットは、物理的にも社会的にもたいして大きくはないかもしれませんが、異なる宗教、政党、人種、年齢の人々が集まり、世界を少し良くするために何かをする場であることは間違いありません。

我が国に、社会の周縁にいる人々のために機能するより良い機会や支援がもっとあればいいのにと思います。普通の人々が、支援のためにもっと良い選択をしてくればいいのにと思います。このような願いが簡単にはかなわないと思え、土曜のフードクローゼットを手伝う気がそがれることもあります。しかし、私は助けるように召されているのであって、裁くためではないこと、そして援助することがどれほど自分を助けるかを思い起こすのです。そして私は気を取り直し、喜んでフードクローゼットへと出かけます。

著者紹介



Todd Guise (タッド・ガイス)

米国パテントエージェント。United IP Counselors, LLC所属。
20年以上の経験を持つ米国パテントエージェントです。

インディアナ大学で数学の学位を取得後、コンピュータサイエンス専攻しました。

これまでに、何千件もの米国特許出願のレビューを担当しており、特に機械分野を中心に多岐にわたる分野の特許出願に携わってきています。

日本に在住した経験があり、母語の英語に加えて日本語も堪能です。

【参考】 www.unitediplaw.com

